

次期「近畿圏の近郊整備区域建設計画及び都市開発区域建設計画」

の基本方針等について

1. 京都地区近郊整備区域建設計画（京都府）	1
2. 大阪地区近郊整備区域建設計画（大阪府）	4
3. 兵庫地区近郊整備区域建設計画（兵庫県）	6
4. 奈良地区近郊整備区域建設計画（奈良県）	8
5. 福井敦賀区域都市開発区域建設計画（福井県）	10
6. 琵琶湖東部区域都市開発区域建設計画（滋賀県）	12
7. 京都中丹区域都市開発区域建設計画（京都府）	14
8. 播磨区域都市開発区域建設計画（兵庫県）	16
9. 和歌山区域都市開発区域建設計画（和歌山県）	18
10. 伊賀区域都市開発区域建設計画（三重県）	20

次期京都地区近郊整備区域建設計画（平成18年度～平成22年度）の基本方針等について

京 都 府

1. 現行建設計画（平成13年度～平成17年度）の進捗状況

- 宅地等： 関西文化学術研究都市の建設（事業中）
「京都新光悦村」の整備（18年度から分譲開始予定）
- 高規格幹線道路： 第二名神高速道路（事業中）
京都縦貫自動車道
（事業中、大山崎 JCT・IC～久御山 JCT（15年度供用開始））
- 地域高規格道路： 第二京阪道路（巨椋池 IC～枚方東 IC（15年3月供用開始））
洛南連絡道路（事業中）
学研都市連絡道路（事業中）
京滋バイパス（15年8月全線開通）
京都高速道路（事業中）
- 鉄軌道： JR山陰本線（京都～園部間）複線化（事業中）
京都市高速鉄道東西線 六地藏～醍醐間（16年11月開通）
二条～天神川間（事業中）
JR片町線の高速化・輸送力増強（14年3月開業）
- 公園緑地： 宝が池公園、桂川緑地（事業中）
西京極運動公園（14年度事業終了）
木津川右岸運動公園（仮称）の整備（事業中）
- その他： 国立国会図書館関西館（14年10月開館）
「私のしごと館」（15年3月開館）
京都大学桂キャンパスの整備（15年10月開学）
京都迎賓館（17年4月開館）

2. 地域の課題

- 本区域は、京都市北西部の亀岡盆地を中心とする南丹地域、京都市の既成市街地の周囲に広がる京都・乙訓地域及びその南側の宇治川以南の南山城地域の三地域に大別され、京阪神大都市地域への通勤・通学圏となっている。
人口、産業、都市機能の集積が高く、高速道路網をはじめとする交通基盤の整備に伴って、産業活力の向上に期待が高まっており、また、文化・学術・研究の新しい拠点として整備が進められている「関西文化学術研究都市」を擁するなど、近畿圏における文化、学術及び研究の中核的な機能を担っている。
- 南丹地域
京阪神大都市地域に近接しており、交通網整備の進展に伴い住宅地の開発や企業立地が進展してきている地域と、基幹産業である農林業の担い手不足等が進んでいる地域がある。
豊かな自然環境を保全・利活用し、景観に配慮しながら、自然と調和した良好な定住環境の整備と、産業の振興が求められており、下水道をはじめ立ち遅れの見られる都市・生活基盤整備をさらに促進し、地域住民のニーズの多様化・高度化に対応した多様で高次の都市機能の充実・強化を図ることが必要である。
- 京都・乙訓地域
京阪神大都市圏への交通至便地域として、早くから住宅開発、商工業集積が図られ、人口、産業等の集積が進んでいる地域であるが、急速な都市化の進行に伴う道路整備の遅れが懸案となっている。また、自動車交通量の増加に伴う交通渋滞が発生しており、沿道環境の悪化を引き起こしている。
成長産業の集積促進、広域幹線ネットワークの整備を推進するとともに、快適で利便性の高い都市生活を支える生活基盤施設の整備等を図り、魅力的で活力ある都市づくりを推進していくことが必要である。
- 南山城地域
主に京阪神大都市地域のベッドタウンとして、また商工業地域として発展してきた。関西文化学術研究都市では、国際的な研究機関等の集積が進みつつある。木津川右岸地域においては、木津川右岸運動公園（仮称）等の整備が進められており、広域道路交通網を活かした新たな産業の集積など、地域全体が大きく発展する可能性が高まっている。
関西文化学術研究都市のさらなる発展に向けて、高度な文化学術研究機能を担う多様な中核的施設や民間研究施設等の整備、居住環境の整備、都市機能の整備、広域的な交通施設、情報通信施設の整備等を推進するとともに、木津川右岸地域においても、自然環境と調和した住宅、産業拠点、レクリエーション拠点の整備など、関西文化学術研究都市の諸機能との有機的な連携を踏まえた地域整備を進めていく必要がある。

3. 次期建設計画の基本方針

国際的な文化・学術の中心地である京都市域や、大阪湾臨海地域等との連携の強化を図るため、京都縦貫自動車道、第二名神高速道路、京都高速道路等の幹線道路整備やJR山陰本線等の複線化・輸送力増強を推進する。

- (1) 南丹地域については、近自然生活を実感できる定住環境の整備を図るため、市町の先進的な環境施策との連携を図りながら、安全かつ機能性・快適性に優れ、環境に配慮した秩序ある都市の形成を促進し、京阪神大都市地域との時間距離を短縮し、活発な交流により地域の活性化及び産業振興を図っていく。
そのために、大都市地域との交流を促進する。また、都市近郊の利点を活かした農林業振興を図る中で、地域の豊かな自然環境や地域文化を活用した広域的な都市農村交流活動の促進を図る。
- (2) 京都・乙訓地域については、安全で快適な生活環境の充実を図りつつ、都市交通基盤の整備と連携し、駅周辺の市街地再整備や土地の高度利用化によって、都市機能の再編・集積を図る。
また、知的産業インフラを活用し、南山城地域にかけて将来の京都経済を支える地域として産業の拠点を整備する。
さらに、豊富な自然・歴史文化資源を保全・活用しながら、都市近郊レクリエーション機能の充実を図る。
- (3) 南山城地域については、交通網の整備を推進し、産業振興や防災時の安全対策等共通の課題に対し、連携して対応できる圏域構造の確立を目指す。
関西文化学術研究都市において、中核的な文化学術研究施設の整備を促進するとともに、次世代情報通信網や快適で良好な生活環境、都市基盤施設の一層の整備を図ることにより、国際化・情報化・高齢化・技術革新、多様な生活ニーズ等に対応した21世紀のパイロットモデル都市にふさわしいまちづくりを推進する。
また、木津川右岸地域において、関西文化学術研究都市と相互に機能を補完し合う産業、住宅、レクリエーション等の機能を有する都市圏の形成を推進する。

現行京都地区近郊整備区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

京 都 府

【対象区域】

南丹地域 : 亀岡市、南丹市（一部）
 京都・乙訓地域 : 京都市（一部）、向日市、長岡京市（一部）、大山崎町（一部）
 南山城地域 : 宇治市（一部）、城陽市（一部）、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、山城町、木津町、加茂町、精華町

【概要】

(計画の基本的方向)

- (1) 南丹地域については、近自然生活を実感できる定住環境の整備を図るため、市町の先進的な環境施策との連携を図りながら、安全かつ機能性・快適性に優れ、環境に配慮した秩序ある都市の形成を促進し、京阪神大都市地域との時間距離を短縮し、活発な交流により地域の活性化及び産業振興を図っていく。
 そのために、都市近郊の利点を活かした農林業振興を図るとともに、大都市地域との交流を促進し、地域の豊かな自然環境や地域文化を活用した広域的な交流促進を図る。
- (2) 京都・乙訓地域については、安全で快適な生活環境の充実を図りつつ、都市交通基盤の整備と連携し、駅周辺の市街地再整備や土地の高度利用化によって、都市機能の再編・集積を図る。
 また、知的産業インフラを活用し、南山城地域にかけて将来の京都経済を支える地域として産業の拠点を整備する。
 さらに、文化首都圏としての多様な取組と連携し、豊富な自然・歴史文化資源を保全・活用しながら、都市近郊レクリエーション機能の充実を図る。
- (3) 南山城地域については、交通網の整備を推進し、産業振興や防災時の安全対策等共通の課題に対し、連携して対応できる圏域構造の確立を目指す。
 関西文化学術研究都市において、中核的な文化学術研究施設の整備を促進するとともに、次世代情報通信網や快適で良好な生活環境、都市基盤施設の一層の整備を図ることにより、国際化・情報化・高齢化・技術革新、多様な生活ニーズ等に対応した21世紀のパイロットモデル都市にふさわしいまちづくりを推進する。
 また、木津川右岸地域において、関西文化学術研究都市と相互に機能を補完し合う産業、住宅、レクリエーション等の機能を有する都市圏の形成を推進する。

(主要フレーム)

(単位:千人)

	12年	17年
人口	1,361	1,387
年少人口	209	208
生産年齢人口	972	954
老年人口	179	225
就業者数	633	633

(主要事業)

宅地等 : 関西文化学術研究都市の建設
 「京都新光悦村」の整備

道路 : 高規格幹線道路 第二名神高速道路、京都縦貫自動車道
 地域高規格道路 第二京阪道路、学研都市連絡道路、洛南連絡道路、京滋バイパス

鉄軌道 : 京都高速道路の整備
 JR山陰本線（京都～園部間）の複線化等の整備の推進
 JR奈良線の高速化・複線化等の整備の推進
 京都市高速鉄道東西線の整備（六地蔵～醍醐間、二条～天神川間）の推進
 JR片町線の高速化・複線化等の整備を推進

公園緑地 : 宝が池公園、西京極運動公園、桂川緑地、木津川右岸運動公園、園部公園

河川 : 桂川、西羽束師川、古川、大谷川、今池川等の河川改修事業の推進

その他 : 「私のしごと館」の整備
 国立国会図書館関西館の建設
 京都大学桂キャンパスの整備

次期大阪地区近郊整備区域建設計画（平成 18 年度～）の 基本方針等について

大 阪 府

1. 現行建設計画の進捗状況

宅地等	<ul style="list-style-type: none"> ・トリヴェール和泉の整備・・・宅地分譲、企業誘致中 ・阪南スカイタウンの整備・・・宅地分譲、企業誘致中 ・りんくうタウン・・・企業誘致中 ・彩都（国際文化公園都市）・・・平成 16 年春西部地区の一部でまちびらき、平成 19 年春西部地区グランドオープン予定
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・第二名神高速道路の整備・・・調査中 ・阪神高速道路（大和川線、淀川左岸線）の整備・・・淀川左岸線事業中、大和川線事業中 ・第二京阪道路の整備・・・平成 15 年 3 月に京都府久御山町から枚方市までの区間が供用し、現在、近畿自動車道門真 JCT までの区間が事業中 ・南阪奈道路・・・平成 16 年 3 月供用
鉄軌道	<ul style="list-style-type: none"> ・国際文化公園都市モノレールの整備・・・阪大病院前～彩都西平成 19 年春開業に向け事業中 ・大阪外環状線鉄道の整備・・・放出～久宝寺間平成 19 年度末完成に向け事業中
港湾	<ul style="list-style-type: none"> ・堺泉北港の国際海上コンテナターミナル等・・・事業中 ・阪南港の多目的国際ターミナル等の整備・・・事業中
空港	<ul style="list-style-type: none"> ・関西国際空港 2 期事業・・・2007 年供用開始に向け施設整備中
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・住道駅南地区の住宅市街地整備総合支援事業の推進・・・事業中
研究施設	<ul style="list-style-type: none"> ・関西文化学術研究都市への立地促進・・・津田サイエンスヒルズ等において企業誘致中 ・北大阪地域におけるライフサイエンス分野の研究開発拠点の形成・・・平成 16 年医薬基盤研究所が開設、「彩都バイオインキュベータ」開所

2. 地域の課題

- ・ 大阪市域では人口増に転じる一方、当該区域においては、平成 17 年には 12 年に比べ人口が減少し、今後少子高齢化の進展により人口減少の加速化を予想。
- ・ ニュータウンの空き住宅の増加、オールドタウン化への対応
- ・ 都市としての活力を維持、国際競争力維持のための広域交流インフラ（道路、空港、港湾）の整備の必要性
- ・ 都市の安全・安心の確保
- ・ 国、地方自治体の財政制約

3. 次期建設計画の基本方針

- ・ 市街地拡大の終息を捉え、エリアの交通結節点を中心に人口、産業、社会基盤の既存ストックを有効活用した産業・文化などの都市機能集積を推進。
- ・ アジアとの交流も視野に入れ、情報や交通ネットワークによる人・モノ・情報交流・連携を強化
- ・ 身近な生活圏の安心、安全の確保と災害に強いまちづくりを推進。

(参考資料)

現行大阪地区近郊整備区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

【 対象区域 】

大阪府内の中、大阪市の全域及び堺市・東大阪市・守口市の一部を除く市町の全域または一部

【 概 要 】

■計画の基本方向

- (1) 臨海エリアや内陸エリアの交通結節点を中心に高度の都市機能集積を図るとともに、定住魅力づくりなど多彩な都市拠点の形成をめざす。
- (2) 安心、安全、快適な住まいとまちづくりを進める。
- (3) 臨海部や内陸部などのエリアと生活連携軸が格子状に交じり合い、都市拠点多方向に交流しあう「連携型地域構造」の形成を進める

■産業振興への取り組み……関西文化学術研究都市や北大阪地域などにおいて各種産業基盤や高次研究開発拠点の有効利用、先端技術開発に努めるとともに、地域特性を考慮した産業振興に取り組む

■土地の総合的な利用価値の創出……土地の多面的な利用価値を空間的に拡大、多層化、連携し、土地利用にメリハリ、地域湖西や特徴を生かした利用を促進

■豊かな環境の保全と創造……生活環境、自然環境、都市環境及び地球環境に関する施策を総合的・計画的に推進

■災害に強いまちづくり……災害に強い都市基盤を計画的に形成

(主要事業)

宅地等	和泉中央丘陵の整備、阪南丘陵の整備、りんくうタウンのまちづくり、彩都（国際文化公園都市）の整備
道路	第二名神高速道路の整備、阪神高速道路（大和川線、淀川左岸線）の整備、第二京阪道路の整備、南阪奈道路の整備
鉄軌道	国際文化公園都市モノレールの整備、大阪外環状線の整備
港湾	堺泉北港の国際海上コンテナターミナル等の整備、阪南港の多目的国際ターミナル等の整備
空港	関西国際空港2期事業の推進
公園緑地	淀川河川公園の整備
河川	淀川水系の整備、大和川水系の整備
住宅	住道駅南地区の住宅市街地整備総合支援事業の推進
研究施設	関西文化学術研究都市への立地促進、北大阪地域におけるライフサイエンス分野の研究開発拠点の形成

1. 現行建設計画の進捗状況と地域の課題

- 震災からの着実な復興
 - ・ 震災から 10 年余が経過。被災地の人口や経済状況は概ね震災前の水準に回復。被災市街地の再生が着実に進展。高齢者の自立支援が引き続き課題。
- 人間サイズのまちづくりの進展
 - ・ 鉄道駅のバリアフリー化やノンステップバスの導入などが進展。今後は、ソフト面も含め総合的にユニバーサルデザインのまちづくりを進めることが必要。
- 美しい地域づくりの進展
 - ・ 無電柱化の推進等により、調和のとれた美しいまちなみ景観を創出。今後は、身近なところで自然とふれあえる場の整備など、生活空間の質的な充実が重要。
- 都心居住の進展
 - ・ 既成都市区域への人口流入が一層進み、計画区域である都市郊外部が過疎化する懸念。特色あるまちづくりを進めることが課題。

2. 次期計画の基本方針

- ユニバーサル社会の構築
 - ・ 誰もが地域社会の一員として安心して暮らし、持てる能力を発揮できる「ユニバーサル社会」にふさわしい生活空間の形成に取り組む。
- 災害への対応・減災社会の構築
 - ・ 平成 16 年の台風 23 号など相次ぐ自然災害や発生が予測される東南海・南海地震に対応し、被害を最小限に抑え、被害を防止する減災社会の構築に取り組む。
- 地域資源の活用
 - ・ 人口減少社会の到来に伴う都市間競争の激化に対応できるよう、自然・景観・歴史・文化・産業等の地域資源を生かした特色ある地域づくりを進める。
- 都市緑化の推進
 - ・ 従来の公園整備だけでなく、県民緑税を生かしたまちなみ緑化やグラスパーキング化、屋上緑化など様々な手法で都市部の緑化を進める。
- 社会ストックの多様な活用
 - ・ 限られた資源で最大限の効果を発揮するため、『「つくる」から「つかう」』を徹底し、用途の転換等により既存の社会ストックの有効活用を進める。
- 交流基盤の一層の充実
 - ・ 生活の広域化と地域間の交流を支える交通網の整備を進めるため、高速六基幹軸など幹線道路網の整備をはじめ鉄道などの公共交通を整備する。
- 郊外ニュータウンの再生
 - ・ 多機能なまちへの転換等による郊外ニュータウンのにぎわいの回復に取り組む。
- 参画と協働のまちづくりの拡大
 - ・ 行政と住民とのコミュニケーションを通じ相互の信頼関係を構築し、公民協働の良質な基盤の整備に取り組む。特に、人と人のつながりの回復を基調に、コミュニティの再生に向けた取り組みを展開する。

現行兵庫地区近郊整備区域建設計画（平成13～17年度）の概要

【 対象区域 】

神戸市（一部）、尼崎市（一部）、西宮市（一部）、芦屋市（一部）、伊丹市、宝塚市（一部）、川西市（一部）、三田市（一部）、猪名川町（一部）

【 概 要 】

（計画の基本的方向）

- 震災からの復興
 - ・ 阪神・淡路震災復興計画後期5か年推進プログラムのもと、21世紀の成熟社会につなぐ「創造的復興」の推進
- 美しい地域づくり
 - ・ 住宅の高質化等による、国際水準の生活居住環境の実現
 - ・ 「なぎさ海道」事業等を通じた、水辺環境を活かした地域環境の創造
 - ・ 歴史街道計画や兵庫歴史文化回廊構想等の推進
- 人間サイズのまちづくり
 - ・ 中心市街地の再生
 - ・ 老朽住宅の更新
 - ・ 安全・安心のまちづくり（六甲山グリーンベルト整備事業や阪神疎水構想の推進による防災機能の強化、ユニバーサルデザインのまちづくり）
- 多核・ネットワーク型都市圏の形成
 - ・ 第二名神高速道路等の整備を通じた、地域一体化を図る総合交通体系の構築
 - ・ 大阪国際空港広域レールアクセス構想等の具体化による空港アクセスの向上
 - ・ 交通需要マネジメント（TDM）の推進

（地域別の基本的方向）

- (1) 近郊市街地域
 - ・ 中心市街地、インナーシティ等の再開発事業の推進による、多様な住宅の供給及び老朽住宅の更新
 - ・ 商業施設、ホテル、会議場及び芸術・文化施設等の多彩な集客施設の整備
 - ・ まちなみや都市景観の修景・創造、歴史的建造物の再生・活用、文化財の保全
 - ・ 公共施設、公共交通のバリアフリー化及び高度医療施設、老人福祉施設、シルバーハウジング等の充実、学校等の公共施設を有効活用した地域コミュニティの拠点づくり
- (2) 副軸整備地域
 - ・ 豊かな自然環境や都市近郊農業との調和のもと、三田、神戸北、神戸西、西宮北部、宝塚北部、猪名川南部などにおける新都市の整備
 - ・ 老朽化の進む既成ニュータウン等における多様な住宅の提供、画一的なまちから多様な魅力に富んだまちへの転換及び業務機能の集積による職住一体・近接型都市としての展開
 - ・ 神戸淡路鳴門自動車道と西日本国土軸との連結点という地理的条件を活かした、情報・物流などの広域的交流基盤の整備

次期奈良地区近郊整備区域建設計画（平成18年度～）の基本方針等について

奈良県

1. 現行建設計画の進捗状況

主な施設整備の進捗状況

<交通施設>

○道路整備

- ・京奈和自動車道(大和・御所道路) 用地取得、工事施工中、平成18年春に部分供用予定(7.8km)
(五條道路) 工事施工中、平成18年春に2車線暫定供用予定(7.9km)
(大和北道路) 環境影響評価の手続き中
- ・南阪奈道路 平成15年度完了
- ・五條新宮道路 調査中
- ・中和東幹線 計画決定約9kmのうち供用区間約6km、2区間で事業中
- ・JR奈良駅付近連続立体交差事業 JR関西線・桜井線の計3.5kmで事業中

○鉄軌道その他

- ・京阪奈新線 平成18年3月開業予定

<公園、緑地等>

- ・馬見丘陵広域公園 平成16年10月供用区域を拡大(開園面積39.5ha)

<河川、水路、治山、砂防>

- ・大滝ダム 現在事業中、平成21年度供用予定
- ・岩井川ダム 現在事業中、ダム本体打設完了。平成18年8月から試験湛水開始予定

<教育・文化・研究施設>

- ・平城宮跡第1次大極殿正殿復原及び院地区環境整備 工事施工中
- ・平城遷都1300年記念事業(平成22年度) 実施基本計画策定(平成18年2月)
- ・県立図書館情報館 平成17年11月開館

2. 地域の課題

本地区は、奈良県域の中核部を占めるとともに、京阪神地区の近傍に位置し、世界に誇り得る貴重な文化遺産や、これらと一体を成す歴史的風土と恵まれた自然環境を併せ持っている。

一方、本地区の人口動態については、平成12年をピークに減少に転じており、少子化対策などによって出生率の低下傾向や人口流出は抑制傾向にあるものの減少しつつあり、特に、生産年齢人口の減少による労働力不足が予想されている。

また、急速に都市化が進んできた本地区においては、交通混雑や水質汚濁、流域の持つ保水・遊水機能の低下などの都市化の弊害が顕在化している。加えて、産業機能をはじめとした様々な都市機能の京阪神地域への依存傾向が強いなどの諸課題を抱えている。

3. 次期建設計画の基本方針

本地区の開発整備にあたっては、少子高齢化、高度情報化の急速な進展等、時代の変化に的確に対応しながら、住民に心の豊かさとゆとりを与え、安全で安心して暮らせるまちづくりを基本に、豊富な歴史・文化・自然などの本県の特性を発揮し、広域的な交流の活発化を図り、魅力と底力を活かして、内外から注目されるような存在感のある地域形成に向けた整備を進める。

<整備の方針>

- ①我が国や世界の人々が、心のオアシスと感じ、訪れ、集う「関西の憩いのオアシス」の形成推進
- ②平城遷都1300年記念事業を契機として、歴史文化をテーマに全国や世界の人々が集い、多彩な交流活動を展開する場となる「歴史・文化国際交流ゾーン」の形成
- ③良好な自然・居住環境を備えた関西文化学術研究都市の整備促進や奈良中和地方拠点都市地域における都市圏の整備
- ④安全で快適に暮らせる住み良い生活環境の確保
- ⑤「なら・半日交通圏道路網構想」の実現に向け、幹線道路網の整備を図るとともに、渋滞解消対策や、道路、街路、農林道による総合的なネットワークの形成
- ⑥ユビキタスネット社会に対応した高度情報通信基盤整備の推進、高付加価値ICTサービスの享受可能な地域社会の構築
- ⑦新たな事業展開や創業に対する支援及び地域の特性を活かした産業の振興
- ⑧生涯学習推進のための多様な学習機会の場の提供と、豊かな人づくりに向けた学校教育の充実
- ⑨少子高齢化や介護制度に対応した施策の推進と、保健・医療サービスの提供が可能な体制づくり

現行奈良地区近郊整備区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

【対象区域】

- 大和平野地域
奈良市（一部）、大和高田市、大和郡山市（一部）、天理市（一部）、橿原市（一部）、桜井市（一部）、御所市（一部）、生駒市（一部）、香芝市（一部）、平群町（一部）、三郷町（一部）、斑鳩町（一部）、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町（一部）、明日香村（一部）、新庄町（一部）、當麻町（一部）、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
- 大和高原地域
都祁村（一部）、大宇陀町、菟田野町、榛原町（一部）
- 五條・吉野地域
五條市（一部）、吉野町（一部）、大淀町、下市町（一部）

【概要】

◎計画の基本的方向

- 少子高齢化、高度情報化の急速な進展等、時代の変化への対応と、安全で安心して暮らせるまちづくりを基本に、豊富な歴史・文化・自然などの特性を發揮し、広域的な交流の活発化を図り、個性と魅力に満ちた内外から注目されるような存在感のある地域形成に向けた整備を進める。
- 整備の方針
 - ・我が国や世界の人々が、心のオアシスと感じ・訪れ・集う「関西の憩いのオアシス」の形成、平城遷都1300年に向けた事業の推進
 - ・関西文化学術研究都市の建設促進、学術・産業の研究開発拠点との交流・連携
 - ・奈良中和地方拠点都市地域における都市圏の整備
 - ・住宅、公園、下水道等生活環境施設の整備、自然環境の保全及び水源地域に配慮した水資源の開発推進
 - ・京奈和自動車道をはじめとした幹線道路網の整備等による「なら・半日交通圏道路網構想」の実現、総合情報通信ネットワークの形成
 - ・新規産業の創出への支援体制の整備、地場産業や農林業の振興
 - ・学校教育の一層の充実、生涯学習の推進にふさわしい環境づくり
 - ・高齢化・少子化など社会構造の変化に対応するための総合的サービスの提供、医療施設等の整備充実

◎産業の業種、規模等に関する事項

- 大都市近郊の特性を生かした農業、観光産業、機械・電気等の高付加価値型産業や人口増加・需要の多様化に伴う第3次産業の立地が進んでいるが、京阪神大都市圏への交通至便なことから、地区内就業率は低く、職住近接型の観点からも、地域に応じた産業の振興を図るとともに、新たな時代のニーズに対応した産業の育成、振興を図る。

◎土地利用に関する事項

- 国土利用計画、土地利用基本計画に即し、「地域特性を生かした県土づくり」を基本目標とし、豊かな自然と優れた歴史・文化遺産を保全しつつ、本地区の特性にふさわしい土地利用を図る。

◎主な施設整備

- <交通施設>
- 道路整備
 - ・高規格幹線道路 京奈和自動車道
 - ・地域高規格道路 南阪奈道路、五條新宮道路、中和東幹線
 - ・東海南海連絡道構想の推進
- 鉄軌道その他
 - ・京阪奈新線
- <公園、緑地等>
 - ・馬見丘陵広域公園
- <河川、水路、治山、砂防>
 - ・大和川流域の清流ルネッサンス21計画の推進
 - ・大滝ダム、岩井川ダムの建設
- <教育・文化・研究施設>
 - ・特別史跡平城宮跡保存整備基本構想の実現に向けて第一次大極殿院の復原整備の促進

次期福井敦賀区域都市開発区域建設計画（平成18年度～）の基本方針等について

福 井 県

1. 現行建設計画の進捗状況

- 日本海国土軸の形成及び特色ある地域づくりと交流の促進
 - ・ 北陸新幹線の整備については、平成16年12月の政府・与党申合せに基づき、平成17年4月に福井駅部が認可され、同6月に着工された。
 - ・ 中心市街地の活性化については、TMOや民間事業者と連携し、空き店舗の解消や中心市街地商店街の賑わいの創出を図っている。
 - ・ 特色ある地域づくりや他地域との交流、連携については、平成16年12月に「デジタル“ふくい”推進計画」を策定し、官民一体となった観光地の魅力づくりに取り組んでいる。
 - ・ 原子力発電所の集積によるエネルギー関連の研究開発、地域産業との交流については、平成17年3月に「エネルギー研究開発拠点化計画」を策定し、県内企業の技術力向上、産学官ネットワークの形成を推進している。
- 新産業の創出及び高付加価値産業の育成
 - ・ 県内企業の技術の高度化や商品開発力を強化するため、福井県工業技術センター等との産学官連携の研究開発を積極的に推進している。
 - ・ 平成16年度から「ふくいジョブカフェ」を設置し、若年者の雇用を促進している。平成17年度からは、経済産業省の人材育成モデル事業の採択を受け、地元企業のニーズ調査等を行うなど産業人材の育成を行っている。

2. 地域の課題

- ・ 産学官連携の強化、先端的なものづくり技術の開発、付加価値の高い新製品の開発・販売への支援・強化等
- ・ 北陸新幹線および近畿自動車道（舞鶴若狭自動車道）、中部縦貫自動車道の早期建設等の高速交通体系の整備ならびに県都福井市の中心部の整備、敦賀市のまちづくり
- ・ 原子力発電所の立地によるエネルギー関連技術や人材の集積を活かした地域の活性化、安全・安心の確保、エネルギーの総合的な研究開発拠点化
- ・ 社会的に助けが必要な人たちに光が当たる「一人ひとりの命が輝く福祉」の実現、災害に強い県土づくり、犯罪発生件数の抑止など治安の回復等

3. 次期建設計画の基本方針

県民が誇りを持てるふるさとづくりを進めるため、「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」の4つのビジョンを掲げた「福井元気宣言」の実現に向け、福井の持つ潜在力を最大限に活かし、豊かな社会を実現していく。

現行福井敦賀区域都市開発区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

【 対象区域 】

福井市（一部）、吉田郡松岡町、坂井郡三国町、同郡芦原町、同郡金津町、
同郡丸岡町（一部）、同郡春江町、同郡坂井町、丹生郡清水町
武生市（一部）、鯖江市、今立郡今立町、丹生郡朝日町（一部）、
南条郡南条町（一部）
敦賀市

【 概 要 】

- 日本海国土軸の形成及び特色ある地域づくりと交流の促進
 - ・ 北陸新幹線の整備ならびに近畿自動車道敦賀線、中部縦貫自動車道および地域高規格道路の建設等の高速交通体系の整備をはじめ、一般国道や港湾の整備、嶺南地域における鉄道網の整備など総合的な交通体系の整備を促進する。
 - ・ 日本海国土軸の中央部に位置し、近畿圏、中部圏、北陸圏のいずれにも属しているという本年の地理的特性を活かし、環日本地域、アジア地域との交流を積極的に推進する。
 - ・ 福井駅周辺の整備については、県都にふさわしい都市空間を創出するとともに、中心市街地の活性化を図る。
 - ・ 旧武生市、鯖江市地域については、眼鏡産業など特色ある地域産業や伝統工芸産業を生かした新分野への進出やデザイン力、情報力向上を促進する。
 - ・ 敦賀市を含む嶺南地域については、原子力発電所の立地によるエネルギー関連技術や人材の集積を生かして、国内外の研究機関、企業が連携した共同研究や交流ネットワークの構築を推進する。
- 新産業の創出及び高付加価値産業の育成
 - ・ 本県産業が蓄積してきた繊維、機会、眼鏡などの特性や優位性を最大限に活かして、今後成長が期待される分野を中心に、21世紀の本県を支えることができる新たな産業の創出に努め、「科学技術創造立県」を目指した科学技術の振興を図る。
 - ・ 高付加価値産業への変革を進めるため、デザインを重視し、県デザインセンターの充実強化やデザイン教育の充実を図る。さらに、活力ある地域産業集積の形成に向け、産学官の連携、協力の下、保有する技術、ノウハウを活用した新たな事業分野を開拓する取組みを積極的に促進する。

次期琵琶湖東部区域都市開発区域建設計画（平成18年度～平成22年度） の基本方針について

滋 賀 県

1 現行計画の進捗状況

本建設計画区域が京阪神に近く、鉄道・道路の主要幹線が通過し国土の主軸上にあるという利点を生かして、企業誘致など産業の振興を図るとともに、琵琶湖を中心とした多様な生態系の保全や、研究等の施設整備を進めてきている。

- 近畿自動車道名古屋神戸線……甲賀市域、大津・草津市域で各工事が順次進捗
- 東海道新幹線新駅……JR東海と工事協定書締結（平成17年12月）
- 琵琶湖環状線（北陸本線長浜駅から湖西線永原駅間の直流電化方式への転換）……工事着手（平成15年）。本年秋に直流化開業予定。
- 米原駅東部地区土地区画整理事業……工事着手（平成14年度）
- 長浜バイオ大学を核とした産業集積……長浜バイオ大学開学（平成15年4月）
長浜バイオ・ライフサイエンス特区（県版経済振興特区）認定（平成16年7月）
- びわ湖環境ビジネスメッセ……平成10年度より毎年開催
- 滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター……設置（平成17年6月）

2 地域の課題

- 本県は、交通の利便性などを背景として、第2次産業に特化して発展してきた全国でも有数の内陸工業県であるが、高速交通基盤の整備が全国的に進む中で、相対的な立地の優位性が低下しつつあることや、県外に本社機能を持つ大企業の工業立地が多いことから、景気の影響を強く受ける産業構造となっている。
- 国土交通の要衝としての当該建設計画区域の優位性を活かすため、鉄道網、道路網の整備をはじめとする広域的な交流機能を強化することにより、工業、商業、観光産業の振興を図る必要がある。
- 環境問題は、地球規模という空間的な広がり、および次世代にわたる影響という時間的な広がりを持つものとなっており、持続可能な社会の構築が求められる中で、環境と調和のとれた開発整備と琵琶湖を中心とする環境保全の取り組みがより一層求められる。

3 次期建設計画の基本方針

- 物質的豊かさを追求した20世紀型社会を反省し、既存の社会のあり方やライフスタイルを見直し、自然と人間とがともに輝きながら、持続可能な発展を続ける社会の構築を目指す。
- 近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神高速道路）の整備や、東海道新幹線新駅の設置等、広域的な交流機能を強化するとともに、環境、健康・福祉、観光、バイオ、ITといった本県の特性を活かした新しい産業の振興を図る。
- 琵琶湖を21世紀における湖沼保全のモデルとして健全な姿で次世代に継承するため、水質の保全、水源のかん養、自然的環境・景観の保全等様々な施策を総合的に実施する。

現行琵琶湖東部区域都市開発区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

【対象区域】

本区域は南部、中部、北部の3地域に区分する。

- 南部地域 大津市（一部）ほか2市7町
- 中部地域 近江八幡市（一部）ほか1市6町
- 北部地域 彦根市（一部）ほか1市7町

【概要】

(計画の基本的方向)

自然と人との共生、エコロジーとエコノミーの両立を柱とし、暮らしに心からの豊かさを実感できる地域づくりを目標として開発・整備をすすめる。

- 先端技術・研究開発型企業の導入や試験研究期間の整備
- 高度な商業・サービス機能の集積
- 農林水産業における高付加価値化等による生産性・市場性の向上
- 近畿自動車道名古屋神戸線、東海道新幹線新駅設置等高速交通網の整備
- 高度情報基盤の整備
- 大学研究期間の整備や誘致
- 琵琶湖リゾートネックレス構想や近江歴史回廊構想の推進
- 福井・岐阜・三重・滋賀4県の連携事業や京都・滋賀・奈良・三重の4府県にまたがる新たな創造を目指した広域的な取り組み等広域連携の推進

(各地域の整備方向)

- 南部地域
 - ・良好な市街地の形成に向けた質の高いサービス機能や居住環境の整備
 - ・行政・経済の中核機能、びわこ文化公園都市等に集積された学術研究機能、民間企業等の産業生産機能等の集積を活用した研究開発機能の強化
 - ・高速・広域交通の整備
- 中部地域
 - ・優良な住宅地や業務地の創出
 - ・周辺地域と有機的に連携した個性ある地方拠点都市の形成
 - ・高速・広域交通の整備
- 北部地域
 - ・彦根市、長浜市を中心とした商業・業務機能や学術・文化機能の集積
 - ・既成市街地の計画的な再整備や新市街地の形成による良好な居住環境の確保
 - ・高速・広域交通網の整備

次期京都中丹区域都市開発区域建設計画（平成18年度～平成22年度）の基本方針等について

京 都 府

1. 現行建設計画（平成13年度～平成17年度）の進捗状況

高規格幹線道路：

近畿自動車道敦賀線（事業中）

京都縦貫自動車道（舞鶴大江 IC～宮津天橋立 IC、15年3月開通）
（綾部安国寺 IC～綾部 JCT、15年3月開通）

地域高規格道路：

鳥取豊岡宮津自動車道（事業中）

連続立体交差事業：

福知山駅周辺 J R 山陰本線等連続立体交差事業（17年11月高架開通）

鉄軌道：

J R 小浜線の電化（15年3月開業）

港湾：

京都舞鶴港の整備推進（事業中（多目的国際ターミナル整備））

公園・緑地等：

丹後海と星の見える丘公園（事業中（18年春一部開園））

2. 地域の課題

- 本区域は、京阪神大都市地域から概ね 100km 以内の距離にあり、商業、港湾、工業、観光といった多彩な機能と集積を持つ福知山市、舞鶴市、綾部市及び宮津市の市街地が形成されている。
- 臨海部は、近畿圏における環日本海交流の門戸港・京都舞鶴港を擁する舞鶴市と、特別名勝天橋立を有する宮津市が、近畿の日本海沿岸部における貿易、商工業、水産業、観光関連産業等の拠点形成している。
- 内陸部は、商圏が丹後、但馬地方に及ぶ福知山市の商業集積に加え、国内有数の内陸工業団地である同市の長田野工業団地や綾部市の綾部工業団地等を擁し、商業、工業の一大拠点を形づくっている。
- このように、多彩な機能を有する四つの都市が機能を分担・連携しながら、全体として北近畿における産業・都市機能の中心的な役割を果たしているが、近年、近畿自動車道敦賀線、京都縦貫自動車道等の整備や、京都縦貫幹線鉄道の高速度化など高速交通網の整備により、京阪神大都市地域との時間距離が短縮されるとともに、4都市相互間のネットワークも強化されつつあり、今後ますます一体的な都市としての性格を強めながら、ポテンシャルが高まっていくことが見込まれる。
- また、環日本海諸国と京阪神地域を結ぶ近畿の南北軸と、今後形成される北陸・山陰につながる日本海側の東西軸との結節エリアに位置しており、グローバルに展開する時代の中で、近畿圏における環日本海交流の窓口としても、重要な機能を発揮していくことが期待されている。
- 高速交通網の整備効果と地域の特性を最大限に活かし、景観に配慮しながら、必要な高次都市機能の整備とその有機的連携を図り、自立的かつ一体的に発展する北近畿の中核的な都市圏を形成していくことが必要である。

3. 次期建設計画の基本方針

環日本海時代を担う北近畿の拠点的な都市圏の形成を図る。

- (1) 環日本海交流の推進
京阪神大都市地域との時間距離の短縮や域内移動利便性の向上を図り、また、環日本海時代の到来を視野に入れつつ、京都舞鶴港、鳥取豊岡宮津自動車道等の整備を進める中で、日本海沿岸の他府県とも有機的な連携を強め環日本海交流の積極的な推進により、地域の活性化を実現していく。
- (2) 中核的な都市圏の形成
本区域内の特色ある4都市が緩やかに連携し、一体的な都市群として地方中核都市にふさわしい高度な商業・業務・サービス機能等を発揮していくことをめざして、国際交流機能、居住・観光レクリエーション機能、生産・物流機能、商業・業務機能など多彩な機能を担う地域として整備し、裾野の広い経済基盤に立脚した北近畿をリードする中核的な都市圏の形成を実現する。
- (3) 中心市街地の活性化
大型商業施設の郊外立地等に伴う商店街の集客力低下等により中心市街地の活力が低下していることに対応するため、中心市街地活性化のための総合的な施策を展開し、にぎわいと潤いのあるまちづくりを推進する。
- (4) 国際港湾京都舞鶴港の機能充実
国際港湾としての京都舞鶴港の機能を充実するため、F A Z（輸入促進地域）の施設を活かしたポートセールスの一層の展開を図るとともに、環日本海圏での「人・もの・情報」の交流を通じ、高次都市機能の一環としての国際交流拠点の形成を進める。

現行京都中丹区域都市開発区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

京 都 府

【対象区域】

福知山市（一部）、舞鶴市（一部）、綾部市（一部）、宮津市（一部）

【概要】

（計画の基本的方向）

環日本海時代を担う北近畿の拠点的な都市圏の形成を図る。

（1）環日本海交流の推進

京阪神大都市地域との時間距離の短縮や域内移動利便性の向上を図り、また、環日本海時代の到来を視野に入れつつ、京都舞鶴港、鳥取豊岡宮津自動車道等の整備を進める中で、日本海沿岸の他府県とも有機的な連携を強め環日本海交流の積極的な推進により、地域の活性化を実現していく。

（2）中核的都市圏の形成

本区域内の特色ある4都市が緩やかに連携し、一体的な都市群として地方中核都市にふさわしい高度な商業・業務・サービス機能等を発揮していくことをめざして、国際交流機能、居住・観光レクリエーション機能、生産・物流機能、商業・業務機能など多彩な機能を担う地域として整備し、裾野の広い経済基盤に立脚した北近畿をリードする中核的な都市圏の形成を実現する。

（3）中心市街地の活性化

中心市街地の活力が低下していることに対応するため、中心市街地活性化のための総合的な施策を展開し、にぎわいとうるおいのあるまちづくりを推進する。

（4）国際港湾京都舞鶴港の機能充実

国際港湾としての京都舞鶴港の機能を充実するため、F A Z（輸入促進地域）の施設を活かしたポートセールスの一層の展開を図るとともに、環日本海圏での「人・もの・情報」の交流を通じ、高次都市機能の一環としての国際交流拠点の形成を進める。

（地域別の基本的方向）

（1） 福知山市においては、旧来からの商業・流通・業務集積や長田野工業団地を核とした産業の振興を図るとともに、福知山駅の周辺整備や情報通信機能の整備、高度業務機能の集積等を促進し、当地域における商業・業務拠点の整備を図る。

（2） 舞鶴市においては、環日本海交流拠点として、その核となる京都舞鶴港の機能高度化を図るとともに、貿易関連の流通業務機能の充実、海洋・海事機能の集積を活かした産業開発等を進め、また、広域的で多分野にわたる交流機能の拡充を図り魅力ある国際交流拠点としての都市づくりを進める。

（3） 綾部市においては、中心市街地の住環境や商業機能の整備を進め都市的魅力を高めるとともに、綾部工業団地等の産業集積を活用した産業振興、広域幹線道路や鉄道の結節点に位置する利点を活かした交通・物流の中継基地としての整備を進める。

（4） 宮津市においては、大手川の改修や市街地整備等による都市の活性化を図り、観光・レクリエーション施設の集積によるリゾート整備を進めるとともに、中・長期滞在が可能で四季を通じて自然や都市型リゾートを楽しめる北近畿の総合リゾート拠点としての整備を進める。

（主要フレーム）

（単位：千人）

	12年	17年
人口	224	222
年少人口	35	34
生産年齢人口	139	135
老年人口	51	54
就業者数	125	125

（主要事業）

道路 : 高規格幹線道路 近畿自動車道敦賀線、京都縦貫自動車道
 地域高規格道路 鳥取豊岡宮津自動車道
 連続立体交差事業 : 福知山駅周辺 J R 山陰本線等連続立体交差事業
 鉄軌道 : J R 小浜線の電化の推進
 港湾 : 京都舞鶴港の整備推進
 公園・緑地等 : 丹後リゾート公園（仮称）、五老ヶ岳公園、三段池公園、
 綾部総合運動公園の整備
 河川・海岸等 : 由良川、犀川、牧川、大手川等の河川改修事業の推進
 天橋立地区等の侵食対策事業

1. 現行建設計画の進捗状況と地域の課題

○美しい地域づくり

- ・景観条例の積極的な運用や無電柱化の推進により、調和のとれた美しいまちなみ景観を創出。また、都市と農山村の交流を促す様々な取り組みが展開。

○人間サイズのまちづくりの進展

- ・鉄道駅のバリアフリー化やノンステップバスの導入などが進展。今後は、ソフト面を含め総合的にユニバーサルデザインのまちづくりを進めることが必要。

○人口減少社会の到来

- ・右肩上がりの発想に立つ地域計画を見直し、人口減少に対応した新たな地域計画を検討することが必要。

○自然空間のマネジメント

- ・内陸部を中心に管理不全に陥った人工林や里山の荒廃が顕在化。住民参加による森づくりや森林等の自然空間の公的管理の仕組みの形成を図ることが必要。

2. 次期計画の基本方針

○ユニバーサル社会の構築

- ・誰もが地域社会の一員として安心して暮らし、持てる能力を発揮できる「ユニバーサル社会」にふさわしい生活空間の形成に取り組む。

○災害への対応・減災社会の構築

- ・平成 16 年の台風 23 号に代表される相次ぐ自然災害に対応し、被害を最小限に抑え、被害を防止する減災社会の構築に取り組む。

○人と自然との健全な関係の構築

- ・地域の豊かな自然を生かしながら、人と自然の営みが調和した地域づくりを進めるため、森林の再生や野生動物の保護管理体制の構築に取り組む。

○新しい科学技術の産業化

- ・世界最大の大型放射光施設の活用や産学官連携の取り組みにより、研究開発成果を生かした産業の創出に取り組むとともに、基幹産業である製造業の強みを生かした取り組みを支援する。

○社会ストックの多様な活用

- ・限られた資源で最大限の効果を発揮するため、『「つくる」から「つかう」』を徹底し、用途の転換等により既存の社会ストックの有効活用を進める。

○多自然居住の支援と交流基盤の一層の充実

- ・豊かな自然の中で農作業等を行いながらゆとりのある暮らしを楽しむ多自然居住を支援する取り組みを展開するとともに、地域間の交流と生活の広域化を支える交通網の整備を進めるため、高速六基幹軸など幹線道路網の整備をはじめ鉄道などの公共交通を整備する。

○参画と協働のまちづくりの拡大

- ・行政と住民とのコミュニケーションを通じ相互の信頼関係を構築し、公民協働の良質な基盤の整備に取り組む。

現行播磨地区都市開発区域建設計画（平成13～17年度）の概要

【 対象区域 】

- 東播磨地域：明石市、加古川市、高砂市、加古郡稲美町、同郡播磨町
北播磨地域：西脇市（一部）、三木市（一部）、小野市、加西市、加東市（一部）
中播磨地域：姫路市（一部）、神崎郡福崎町
西播磨地域：相生市（一部）、赤穂市（一部）、たつの市（一部）、宍粟市（一部）、
揖保郡太子町、赤穂郡上郡町

【 概 要 】

（計画の基本的方向）

- 美しい地域づくり
 - ・「流域文化」の理念にもとづく水に親しむ生活文化と地域環境の創造
 - ・都市と農山村の交流基盤、田園空間の整備
 - ・美しい都市景観、快適な生活居住空間の創造
- 人間サイズのまちづくり
 - ・都市空間の再編整備
 - ・計画的な市街地整備による無秩序な市街化の抑制
 - ・公共施設のコミュニティ拠点としての活用
- 広域交流の拠点づくり
 - ・山陽自動車道沿線での高次産業拠点の形成による新たな産業クラスターの形成
 - ・大規模未利用地の活用等による総合的な都市基盤整備
 - ・中国横断自動車道等幹線交通軸の整備

（地域別の基本的方向）

- (1) 東播磨地域
 - ・土地利用の適正化、駅前業務地区の市街地再開発事業、土地区画整理事業の推進、住工混在地区の解消などによる都市空間の再整備
 - ・河川環境を含めた水に親しむ生活文化と地域環境の創造
- (2) 北播磨地域
 - ・既成市街地における、駅前地区等を中心とした再整備の推進及び下水道、公園などの都市基盤整備
 - ・東播磨流域文化圏構想のもと、河川・ダム湖畔やため池など多様な水辺空間を活かし、水の文化を基軸にした地域整備
- (3) 中播磨地域
 - ・西播磨テクノポリス地域の母都市となる姫路市における商業、業務、文化、情報等の都市機能の拡充と魅力あふれる都心の形成
 - ・大規模未利用地の活用等による複合的な都市施設の整備と産業の再活性化
- (4) 西播磨地域
 - ・西播磨テクノポリス地域の拠点都市である播磨科学公園都市の整備の推進
 - ・瀬戸内海国立公園等周辺の自然環境保全への配慮及び歴史的なまちなみ、文化財の保護、都市景観の修景

次期和歌山区域都市開発区域建設計画（平成18年度～）の基本方針等について
和歌山県

1. 現行建設計画の進捗状況

主要プロジェクトの状況

近畿自動車道紀勢線	御坊南部間：H15 供用開始、海南吉備間：4車線化事業中
京奈和自動車道	橋本道路：H18 春部分供用 紀北東道路、紀北西道路：事業中
府県間道路	第二阪和国道：事業中、泉佐野岩出線：H19 供用見込み
港湾	特定重要港湾和歌山下津港の多目的国際ターミナル：H13 供用開始 重要港湾日高港：H16 供用開始
公園緑地	和歌公園：H15 完成、紀の川緑地：事業中
下水道	紀の川流域下水道 伊都処理区：H13 一部供用開始 紀の川流域下水道 那賀処理区：事業中
医療施設	こころの医療センター（県立五陵病院）：H14 完成 橋本市民病院：H16 完成

2. 地域の課題

少子化・高齢化の進行等による人口減少、中心市街地の機能低下、地域コミュニティの活力減退

- 総合交通体系の整備、都市機能の充実、地域産業の高度化
- 歴史文化遺産等を活用した観光振興
- 東南海・南海地震対策等

3. 次期建設計画の基本方針

「安心して活力あふれる和歌山の実現」、「新ふるさと創り」を基本的な考え方として、京阪神都市圏等との機能分担、相互補完を視野に入れた広域的な交流・連携を促進する。

歴史的文化資源や豊かな自然環境を活かした魅力的な地域づくり、都市機能の充実に取り組みとともに、都市と地方との交流により人口流動を図るなど、より大きな圏域として調和のとれた発展を目指す。

また、近い将来発生が予想されている東南海・南海地震や風水害に総合的に対処するため、防災機能を強化し災害に強いまちづくりを推進する。

そのため、地域の特性や課題を踏まえつつ、次の5つの方向において、各種施策の推進に努める。

「開かれた和歌山」を実現する交通・情報通信ネットワークの形成

- ・県境を越えた交流連携の強化
- ・陸上高速交通網と連携した物流の効率化
- ・災害時のリスク分散を図るための港湾機能の強化
- ・情報通信基盤の整備と情報格差の解消

環境と調和した高次都市機能の集積促進と産業の活力創造

- ・下水道整備、公園整備など快適な生活環境整備、地域の基幹病院の設備充実
- ・農産物生産基盤の整備、産品の高付加価値化

都市との交流による農山漁村振興と定住の促進

- ・少子高齢化による人口減少や団塊の世代の大量退職を踏まえ、人口流動につながる本格的な農林業体験等の事業の推進と定住に向けた総合的な支援

歴史文化資源と豊かな自然を活用した観光の振興

- ・関西国際空港や大都市圏との近接性と世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」等豊かな自然・歴史・文化を活かした観光振興
- ・観光拠点施設の整備、シーニックバイウェイの推進

「最小不安社会」を実現する災害対策と安全・安心なまちづくり

- ・ソフト対策を含めた地震・津波対策等防災機能の強化
- ・ユニバーサルデザインの考え方や防犯に配慮した生活環境整備

現行和歌山区域都市開発区域建設計画（平成13年度～平成17年度）の概要

和歌山県

【 対象区域 】

和歌山市、海南市、紀の川市、那賀郡岩出町、橋本市、伊都郡かつらぎ町、同郡高野口町、同郡九度山町、有田市、有田郡湯浅町、同郡広川町、同郡有田川町、御坊市、日高郡美浜町、同郡日高町、同郡由良町、同郡日高川町
(※下線は一部が区域指定にかかるもの。H18.2.27 現在の市町村状況)

【 概 要 】

(計画の基本的方向)

京阪神都市圏等との機能分担を視野に入れながら、安全でゆとりとくつろぎのある「世界都市」近畿圏の南の中核拠点地域として高次都市機能の集積による広域的な都市圏の形成を目指す。

(1) 和歌山地域 関西国際空港の至近距離にある中核圏域として高次都市機能の集積による国際交流都市圏の形成を図る。

- 道 路：京奈和自動車道（紀北東道路、紀北西道路）、第二阪和国道、府県間道路（泉佐野岩出線）等
紀伊淡路連絡道路（紀淡連絡道路）について所要の調査を行う等構想推進
- 港 湾：特定重要港湾和歌山下津港（多目的国際ターミナル）
- 公園緑地：和歌公園（和歌山市）、紀の川緑地（和歌山市）
- 下水道：紀の川中流流域下水道（那賀処理区）
- ダム等：紀の川大堰
- 教育文化施設：和歌山大学（グラウンド整備）

(2) 橋本地域 県東部の近隣府県を含めた中心地域、地方拠点都市地域として、快適な居住文化エリア、ハイアメニティ・タウンの形成を図る。

- 宅地等：橋本林間田園都市（橋本市）
- 道 路：京奈和自動車道（橋本道路、紀北東道路）、大阪橋本道路、府県間道路（国道480号）等
- 下水道：紀の川流域下水道（伊都処理区）
- 公園緑地：隅田A緑地（橋本市）
- 医療施設：橋本市民病院（橋本市）

(3) 有田地域 高速道路等を活用した産業の集積と農業等のブランド化の促進や保健・医療施設等の充実によりゆとりある生活空間を形成する。

- 道 路：近畿自動車道紀勢線（海南吉備間）
- 医療施設：県立五陵病院（有田川町）

(4) 御坊地域 交通ネットワーク、物流基盤及び工業用地の整備と野菜・花き栽培等の振興により、自立発展圏の形成を目指す。

- 道 路：近畿自動車道紀勢線（御坊南部間、吉備御坊間）
- 港 湾：重要港湾日高港の整備充実
- 社会福祉施設：由良あかつき園（由良町）

1. 現行建設計画の進捗状況

- (1) 上野新都市では、「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」の複合機能を備えた都市空間の開発が進められ、中核施設である「ゆめドームうえの」等の建設や企業誘致も着実に進んでいる。
- (2) 治水、利水の推進を図る川上ダムの建設に向け、用地買収や付替道路工事が進められている。
- (3) 芭蕉生誕360年を契機とした広域的イベントを開催する等「歴史文化資源を活かした地域づくり」を推進した。

2. 地域の課題

- (1) 産業や住民生活の基盤となり、近畿圏・中部圏の各府県との交流・連携を支える道路網の整備や西日本旅客鉄道関西本線の複線電化が必要である。
- (2) 豊かな自然や歴史文化などの資源を活用した地域づくりを行うとともに、近畿圏・中部圏の結節点に位置する利点を活かした更なる集客交流への取組が必要である。
- (3) 本区域を流れる木津川流域において、住民が安全・安心して生活できるよう洪水調整機能として川上ダムの整備が必要であるとともに、これらの河川は、大阪など下流域の住民にとっても貴重な水源であり、公共下水道等の整備を図るなど、一層の水質の保全、改善に努める必要がある。
- (4) 魅力ある産業の創出や雇用の場の確保とともに、魅力ある都市づくりが課題である。
- (5) 廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用を促進するとともに、一般廃棄物についても、地球温暖化の進行等に対応するため、資源循環型社会を構築するための取組を進める必要がある。

3. 次期建設計画の基本方針

(1) 連携ネットワークの形成

- ・ 近畿自動車道名古屋大阪線など東西方向の交通体系に加え、本区域から名神、第二名神高速道路へのアクセスとなる名神名阪連絡道路など南北方向の交通体系の整備を推進する。
- ・ 近畿圏と中部圏を乗り換えなしで最短距離で結ぶことができるよう西日本旅客鉄道関西本線の複線電化や近畿日本鉄道伊賀線の輸送サービス等の向上について国等と協調して考えていく。また、リニア中央新幹線の実現に向けて検討を進める。

(2) 地域経済を支える産業振興

- ・ 研究開発機能を有した企業や環境に配慮した企業誘致を推進する。さらに、医療・健康・福祉産業の集積、連携を図るメディカルバレー構想等の推進を図る。
- ・ 地域内で生産された物産に市場競争力と文化的価値を備えることで、伊賀ブランドを確立し、戦略的に発信する。

(3) 訪れたい地域づくり

- ・ 宿泊機能の充実や観光施設間の広域ネットワーク化を推進し、日帰り型または通過型の観光に滞在型の観光を加え、観光需用の多様化に応じた魅力の提供を図る。

(4) 快適なまちづくりの推進

- ・ ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するとともに、公共下水道、都市公園等の都市基盤の整備を進める。

(5) 環境保全

- ・ 廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用を促進するとともに、ごみの発生が抑制され、排出された不要物は最大限資源として利用される「ごみゼロ社会」の実現のために住民、事業者、市と協働して取り組む。
- ・ 木津川流域の河川において、上下流一体となった流域圏づくりによる水質の保全及び改善に努める。

(6) 安全・安心を実感できる地域社会づくり

- ・ 地震に対する減災のため、「三重地震対策アクションプログラム」等に基づき、避難所をはじめとする公共施設等の耐震化を推進するとともに、震災後の救援、復興活動のための緊急輸送道路の整備を検討する。
- ・ 治水、利水を推進するため、川上ダムの建設促進を図るとともに、伊賀水道用水供給事業等水道施設の拡充を図る。

なお、首都機能移転の候補地である「三重・畿央地域」を有する区域として、その実現に向けて取り組んでいく。

現行近畿圏伊賀区域都市開発区域建設計画(平成13年度～平成17年度)の概要

【 対象区域 】

上野市（一部）、名張市（一部）、阿山郡伊賀町（一部）、同郡島ヶ原村、同郡阿山町（一部）、同郡大山田村（一部）、名賀郡青山町（一部）

【 概 要 】

豊かな自然や歴史文化と調和した安全で潤いのある生活空間の創造を図ることにより、質の高い暮らしが創造できる個性的で魅力的な一体性のある地域の形成を目指す。

(1) 産業振興の取組

- 上野新都市等への企業立地を促進し、先端技術関連企業や研究開発機能を備えた企業の誘致を図る。
- 高度情報化への対応として、光ファイバー網の整備やケーブルテレビのサービスエリア拡大等多様な高度情報通信基盤の整備を図る。

(2) 交通網の整備

- 一般国道 25 号（名阪国道）の高速機能の確保や一般国道 163 号の改良など東西報告の交通体系に加え、第二名神高速道路へのアクセスとなる名神、名阪連絡道路の調査や一般国道 368 号、422 号等南北方向の交通体系の整備を推進する。
- 西日本旅客鉄道関西本線の複線電化による輸送力増強、近畿日本鉄道伊賀線等の輸送サービス向上に向けた検討を行う。
- 中央新幹線について、今後の経済・社会の動向を踏まえ調査を進める。

(3) 集客交流の取組

- 俳聖松尾芭蕉のふるさととして、芭蕉生誕 360 年（平成 16 年）を契機に地域が一体となって広域的イベントを開催する等の俳句を生かした地域づくりを推進する。
- 本区域の歴史文化資源、自然資源、独自の特色ある産品を近畿圏を中心として情報発信し、集客交流の推進や地域産品の販路拡大につなげていく。

(4) 生活基盤の整備、環境の保全

- 障害者、高齢者をはじめ全ての住民が安全で快適な生活を実現するため、バリアフリー化や防災性の向上を図るとともに、都市公園や下水道等の生活環境施設の整備を推進する。
- 木津川流域においては、上下流が一体となって、流域圏づくりを推進する等環境の保全と創造を図る。